

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670900501		
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム醍醐寺(1F)		
所在地	京都市伏見区醍醐伽藍町21-1		
自己評価作成日	平成28年8月23日	評価結果市町村受理日	平成29年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年10月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様、一人ひとりの生活リズムがあり、その生活リズムを尊重しながら、利用者様の出来ることや役割を大切に毎日を過ごして頂いています。
お誕生日などには、ご利用者様や家族様の希望を聞き、ご利用者様の食べたいものや、行きたい所などに出かけています。また、家族様をお招きして一緒にお誕生日をお祝いして頂く事もあり、それぞれのニーズに合った対応をしています。
職員間のコミュニケーションも取れており、利用者様も職員も明るくて、笑顔の多いグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは一人ひとりのできる力を引き出し食事作りや掃除等の家事、畑の世話や得意な習字等利用者が活躍できる機会を多く提供し、生きがいや楽しみのある暮らしに繋がるよう関わっています。活動的な利用者も多く、職員はユニット間で連携し利用者の自由な行動を見守り個性を尊重した支援に取り組んでいます。また運営推進会議やホームの行事には多くの家族の参加と協力があり、ホームの秋祭りでは家族に露店の協力を得るなど家族と共に利用者を支える関係づくりを行う中で家族の楽しみにも繋がっています。事業所移転から2年が経過し自治会長から地域行事の案内をもらい参加したり、災害時の協力依頼やホームの秋祭りの案内を地域に回覧してもらう等ホームへの理解も深まり協力が得られており、更に地域の方の意見を聞きながらより良い関係作りに努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を毎日の出勤時に見える位置に掲示し、共有に努めている。	2年前の移転を機にそれまでのホーム理念の見直しに向け職員にアンケートをとり意見を集約し、楽しい生活や地域を意識した暮らし、安心などを謳った独自の理念を掲げています。法人理念を毎朝唱和しホーム理念については管理者が日々の業務の中で職員に伝えたり、毎月の職員会議で実践状況を確認しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には、町内会長様が毎回出席してくれており、地域との情報交換に努めている。地域の行事(地蔵盆や小学校の夏祭り)への参加や見学を行っている。	散歩や買い物の際に出会った方とは挨拶や言葉を交わしたり、運営推進会議等から情報を得て地蔵盆や夏祭り等に参加しています。大学生の音楽ボランティアの来訪やホームの秋祭りは町内会長の協力を得て地域への回覧が決まっており、近隣施設や児童館にも声をかけ開催を予定しています。また近隣保育園に管理者が挨拶に行くなど交流が広がるよう取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会と連携し、認知症に関する講座の開催を予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、ご利用者のご家族や地域包括支援センター、町内会長様に参加して頂いている。そこでの様々な意見に対して、可能な限り実践している。	会議は多くの家族や町内会長、地域包括支援センター職員等の参加の下、隔月に開催しホームの現状や行事、事故等の報告を行い意見交換をしています。地域情報をもらい地蔵盆等の行事に参加したり、家族の意見を受けて希望する方へ訪問マッサージの導入や日々の中で階段を使用しての移動、花の水やり等積極的に生活リハビリを取り入れ意見を反映した取り組みに繋がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホームで年4回作成している広報誌(行事の様子を掲載)を役所の介護保険課まで届けている。	諸手続きなどは法人担当者を通して行っていますが市からアンケートなどが届いた際は協力したり、運営推進会議の議事録は管理者が広報誌と共に窓口に提出し連携が図れるよう努めています。日常的には地域包括支援センターと連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外の玄関の施錠は行っていない。また、身体拘束を実施せずに、職員の見守りを強化し対応している。	身体拘束に関する法人研修を受講し資料を基に全職員に伝達研修を行い周知しています。身体拘束をしないケアについての法人独自の評価基準があり、会議の中で項目に沿って確認したり、年2回の個人面談の際にも確認しています。言葉による制止が見られた時はその都度注意し、待つてもらう際の言葉についても考えるよう伝えています。利用者がホーム内を自由に行動できるよう見守り、外に行きたい方には付き添っています。	

洛和グループホーム醍醐寺(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一回虐待についての研修を実施している。また、今年度虐待についてのアンケートを全職員に実施した。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回権利擁護に関する研修を実施している。成年後見制度に関する、パンフレットを施設の入り口に置き、閲覧できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、家族様に書面を通して説明を行うと共に、疑問な点がないかの確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一度の運営推進会議で、家族様から運営に対しての意見をお聞きし、改善に努めている。運営推進会議の議事録を作成し、外部者が見られるよう、施設の入り口に置いている。一年に一度、運営に関するアンケートを実施している。	日頃から家族の来訪が多く職員から積極的に声をかけ利用者の様子を伝えて意見を言いやすい関係づくりに努めたり、運営推進会議にも多くの家族の参加を得ており、意見や要望を聞いています。意見を受けて下肢筋力が低下しないよう階段での移動を取り入れたり、エアコンの風向きの調整や手先を使うレクリエーションなど、意見を反映した取り組みに繋がっています。また法人によるアンケート調査も行われています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、職員会議を行い運営に対しての意見交換を実施している。また、日頃から職員一人一人から意見を収集している。	職員の意見は月に1度の職員会議や申し送り、日々の業務の中でも多くの意見や提案を聞いています。会議に参加できない職員や意見を出すことが苦手な職員には管理者が個別に聞いています。また行事ごとに担当を決めアイデアを取り入れたり、法人による勤務時間の変更があり、次回会議では議題に上げ意見を聞く予定としています。また管理者は定期面談や随時の面談にも応じ意見を出せる機会を多く設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に対して、年に1回やりがいアンケートを実施しており、意見の集約に努めている。また、キャリアパス制度を実施しており、各職員が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回程度、法人内研修を実施し、参加した職員が伝達研修を実施している。それぞれの職員が、目に見える形で力量を把握するため、力量評価表を活用している。		

洛和グループホーム醍醐寺(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加の機会を設けており、ネットワークづくりができるよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に、本人様や家族様との面接を実施している。その場で困っていることや不安なことをお聞きし、安心していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に、本人様や家族様との面接を実施している。その場で困っていることや不安なことをお聞きし、安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に、グループホームで生活することが適切かどうかの見極めを行っている。不適切であると判断した場合には、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、洗濯、掃除等の家事全般をご利用者と共に行い、暮らしを共にする関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と本人様が交流できるような行事を企画しており、家族様と共に本人様を支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が面会に来やすい環境づくりに努めまた、行事やお誕生日などには、家族様や馴染みの方にも参加して頂けるようお声かけしている。	友人や以前近所に住んでいた方、親せきなどの来訪の際は居室に案内し椅子や飲み物を用意し自由に過ごしてもらおう伝えていきます。よく行っていた東寺の弘法市や飲食店へ職員が付き添って出かけたり、墓参りの希望を受けて職員と出かける予定を立てるなど本人の希望や思いを大切に支援しています。また知人からの電話の取次ぎや手紙のやり取りなども支援しています。	

洛和グループホーム醍醐寺(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の利用者様が孤立することがないように、普段の座席に配慮している。また、レクリエーションへの参加を促し、他のご利用者と関わる機会を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談員を交えながら、本人様や家族様のフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式によるアセスメントや振り返りシートを活用し、本人の思いや意向についての把握に努めている。	入居に向けての面談で得られた暮らしへの意向や生活歴、趣味などの情報をアセスメントにまとめ職員間で共有しています。入居後は介護計画の見直し毎に利用者や家族の希望を確認しており、日々の関わりや様子、家族の面会時に得られた新たな情報は介護日誌やアセスメントに追記し職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス提供開始前の面接で本人様や家族様から情報を得よう心がけている。また、普段の生活の中や、家族様の面会時に聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの暮らしの現状に関しては、申し送り時や介護日誌での記録を通して、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際には、本人様、家族様、医師、看護師より意見を聞き、介護計画に反映させている。カンファレンスの際に、職員同士で課題について話し合い、ケアに繋げている。	介護計画作成時には利用者や家族、主治医などに希望記入用紙を用いて希望や意見を出してもらい、カンファレンスを開き職員の意見を集約し作成しています。計画の実施状況を日々記録し、変化のない方は1年毎に見直し、新たな課題が生じた場合は随時計画を見直しています。希望や意向、身体状況の変化などは随時アセスメントに追記し現状を把握するようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を個別記録に記入し、職員の情報共有に努めている。また、介護計画に関わることについては、必ず個別記録に記入し、介護計画の見直しに活かしている。		

洛和グループホーム醍醐寺(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様のニーズに応じる為、家族様の対応が難しい買い物等は、家族様に代わって実施している。訪問美容や、訪問マッサージ、訪問歯科も希望に応じて提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内や社会福祉協議会との連携を強化し、行事等に積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回往診を実施しており、適切な医療が受けられるように努めている。専門的な治療が必要な場合には、本人様、家族様と相談し受診している。	入居時にこれまでのかかりつけ医を継続できることを伝えていますが現在は全利用者が協力医に変更し月2回往診を受けています。協力医へ受診が必要な場合は職員が付き添い、他の医療機関への受診は家族が付き添い状況により職員が同行しています。また急な体調の変化時などは24時間連絡が取れる協力医や訪問看護師の指示をもらい対応しています。希望に応じて訪問マッサージなどを受けることができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護を利用して頂いており、看護師が訪問に来た際に情報の共有を行っている。24時間体制で看護師と相談できるような体制を整えており、適切な受診や看護が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した際には、本人様の状況の把握を行なうため、適宜、病院の相談員に連絡し、早期退院に努めている。また、必要に応じて病院に行き、本人様の状況把握、病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期が訪れることについての説明を運営推進会議等で少しずつ説明している。そのような状況がある場合には、早期に話し合いを実施し、チームで支援に取り組んでいく。	入居時に終末期のホームの対応について説明し家族の意向を確認しています。状態に変化があれば医師や家族、職員で話し合い家族の意向を再確認し方針を決めています。過去に終末期支援の経験があり、家族から質問を受けるなど家族の関心も高く意向があればホームでできる支援に取り組む予定としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が入職する際に、普通救命講習を行っている。その後も、定期的に普通救命講習を実施し、実践力を身に付けている。		

洛和グループホーム醍醐寺(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回消防訓練を実施し、年に1回は消防署との合同訓練を実施している。地域の協力が得られるように、地域交流に努めている。	2ヶ月に1度訓練のシュミレーションをしたり、消火器や非常灯、火災報知機の確認などを行っています。その内年に2回は消防署の立ち合いの下通報や初期消火、避難誘導などを行いアドバイスをしています。運営推進会議の中で町会長に災害時の協力を依頼すると共に水や日常の食品を多めに備蓄しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに関して、職員会議で適切な言葉遣いをするように促している。また、普段から職員間で注意やアドバイスを行い、意識向上に努めている。	接遇やマナーに関する研修を受講した職員が資料を基に伝達研修を行っています。日常的には丁寧な言葉遣いに努め、新人職員には日々の指導の中で入室時に了解を得ることなど基本的な内容を伝えています。職員の言葉遣いや対応に問題があれば管理者や職員間でも注意し、会議の中で話し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事作りやレクリエーションを実施する際には、本人様に希望をお聞きするようしている。また、普段から自己決定ができるように声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操やレクリエーション、おやつ等の時間には、お部屋におられるご利用者に声掛けを実施しているが、本人様の希望に応じて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は入居される前から着ておられる服を持参して頂き、その人らしい身だしなみをいただいている。外出の際には、希望される方には、化粧をして頂いたり、外出用の服を着ていただいたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいかをお聞きしてから作るようにし、できる限り希望にお応えしている。食事作りが困難なご利用者様には、味見などで参加して頂いている。	職員が旬の物をとり入れ、希望も聞きながら献立を決め、食材は発注し足りないものを利用者と一緒に買いに行っています。調理の一連の流れの中で全て関わられる方もおり、積極的に携わってもらっています。職員も共に食卓に着き談笑しながら食事を摂っています。また暦の上での行事食やパーベキューの他、寿司や天婦羅などの出前をとったり、家族との外食、手作りおやつや利用者に教わりらつきよを漬けるなど、食べる事を楽しめるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量を毎日チェックし、食事量や栄養が不足している場合には、医師と相談し栄養補助食品で栄養不足を補っている。一人ひとりの状態、力を把握し、食事形態を考えて提供している。		

洛和グループホーム醍醐寺(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行っており、歯を磨くのが不十分な方には、支援を行っている。1週間に一度の訪問歯科を利用し、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの力を把握し、排泄の失敗がある方に対しては、支援を行い失敗を防いでいる。	排泄については自立している方も多く、支援が必要な方は排泄記録をとり、カンファレンスや日々の中で一人ひとりに合った支援方法や排泄用品を検討しています。夜間はおむつを使用している方も日中は全員がトイレで排泄できるよう声掛けやトイレへ案内をしています。また紙パンツを使用して退院となった場合などは入院前の布の下着に早期に戻るよう自立に向けて支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がある方や数日便が出ていないご利用者に対しては、牛乳やヨーグルトを提供したり、なるべく自然なかたちでの排便があるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	前回の入浴から日が空いている方から声掛けを行っている。入浴を希望されない場合には無理に入っていたりすることはせず、時間や日にちを変えて対応している。	入浴は週に2回を目安に午後から間隔の空いている方から声をかけ、湯温などはできるだけ好みに合わせて入ってもらっています。音楽を流したり、好みのシャンプーなどを使用する方や季節の柚子湯、希望を聞きながら入浴剤なども使用し入浴を楽しめるよう支援しています。また浴室と脱衣室の温度差にも留意しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて、日中の臥床を促している。夜に不安のある方に対しては、安心して頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された際には、薬表を掲示し職員全員が確認をするようにしている。服薬後には、普段の様子との違いについて確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりがどの程度の家事ができるかを理解し、その方に合わせた役割を持っていたりできるように支援している。お好きなことも理解し、その方が気分転換を図っていたりできるように支援している。		

洛和グループホーム醍醐寺(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人様の馴染みの場所や家族様からの情報をもとに、職員と共にまた家族様と同行して頂きご本人様の希望の場所に出かけられるよう支援している。	日の々散歩や買い物、庭や玄関先で外気浴などを行っています。隣接する醍醐寺の桜や紅葉の他、多くの外出行事を設け琵琶湖や三室戸寺のアジサイなどの花見や敬老会での外出など行事によっては家族にも声をかけ一緒に外出を楽しんでいます。また東寺の弘法市や通っていた飲食店などへ個別の希望を聞きながら出かける個別外出にも取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設でお金を管理しているが、ご本人様の買い物時などは、必要に応じて持っただけようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様が、家族様に頼みごとがある時は、直接電話して頂いたり、お孫様などに手紙を出される時は、葉書選びや郵便局まで職員と共に出かけ、ご本人の思いを大事に出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間の光や室温に配慮し、不快な刺激がないように配慮している。、季節感のある掲示物をご利用者様と一緒に作り掲示したりしている。また、窓からは、花が見れるよう庭に花壇をつくり季節感を味わって頂けるよう工夫している。	共用空間は利用者が活けた花や季節に合わせて一緒に作った作品などを飾り、庭や玄関先では花や野菜を育て利用者が季節を感じながら過ごせるよう配慮しています。またソファを数か所に配置し、玄関先にもベンチを置き居場所を選んだり気分転換を図れるようにしています。日々の換気や掃除、エアコンの風向きを調整するなど過ごしやすい空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前や廊下、リビング横にソファを置き、気分に応じて過ごしていただけるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた馴染みの家具を持ってきて頂き、居心地よく過ごせるよう工夫している。	入居時に馴染みの物や使い慣れた物を持って来てもらうよう伝え、筆筒や座り慣れた椅子などを持参し家族が過ごしやすいよう配置しています。大切な家族の写真や好きな本、手芸用品の他、愛用しているカバンなども持って来てもらっています。また居室で観葉植物を育てたり、絨毯を敷き布団を敷いて休む方もおり生活習慣なども大切にしながら安心できる居室づくりを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式を通して、できることわかることの把握に努めている。ご自分で出来る事はできる限りして頂き、自立支援に努めている。		